

【選択式 出題事例】

■松の文化・歴史

問1

名松で有名な庭園とその所在地の組み合わせとして正しいのはどれか。

1. 栗林公園 — 徳島県
2. 兼六園 — 岡山県
3. 偕楽園 — 茨城県
4. 後樂園 — 広島県

問2

日本のアカマツの歴史に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. アカマツは縄文時代の森林では優先樹種の一つであった。
2. 奈良、平安時代まで日本列島のアカマツの分布は稀であった。
3. 日本列島への水田稲作の導入拡大がアカマツ林拡大の最初のきっかけになった。
4. 江戸時代になってからアカマツ林は減少した。

■松枯れの現状と対策

問3

薬剤防除に関わる関係法令等の次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 森林病虫害等防除法では、市町村が防除実施基準を定めることとされている。
2. 松くい虫の薬剤防除においては、森林病虫害等防除法に基づく農薬登録を受けていない資材を用いることはできない。
3. 農薬登録された薬剤は、製品ラベルに登録内容を表示することが義務づけられており、使用に当たっては必ず目を通す必要がある。
4. 「住宅地等における農薬使用について」の通知では、松くい虫防除への適用は除外されている。

問4

森林病虫害等防除法に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 現在、カシノナガキクイムシは、森林病虫害等防除法の対象となる「樹木に付着して生育を害するせん孔虫類」には含まれていない。
2. 森林病虫害等防除法では、シカ、イノシシ等の鳥獣については、徹底的な駆除ではなく生息数の管理を行うこととしている。
3. 森林病虫害等防除法は、昭和52年に「松くい虫防除特別措置法」が失効した際に制定されたものである。
4. 森林病虫害等防除法では、農林水産大臣又は都道府県知事が駆除を命ずることができる。

■松の生理・生態

問5

五葉松類に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 五葉松類には、アカマツ、ヒメコマツ、ハイマツが含まれる。
2. 五葉松類の葉は、長枝につく1本の針葉が基部で5本に枝分かれしたものである。
3. 五葉松類の針葉の木材は、一般に二葉松類の木材に比べて硬い。
4. 五葉松類の葉の中央には1本の維管束がある。

問6

アカマツおよびクロマツの生態に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. クロマツは山地の尾根や石灰岩地などに多く、遷移の極相種である。
2. アカマツの稚樹は乾燥に弱いため、海岸や湿地に多い。
3. アカマツ、クロマツともに耐陰性が低いので、鬱閉した林内にはこれらの稚幼樹は少ない。
4. アカマツ林の下刈りや落葉かきは、マツタケなどの菌根菌に害がある。

■マツノマダラカミキリの生理・生態

問7

マツノマダラカミキリ成虫の後食（摂食）樹種と部位に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. マツ科、ヒノキ科、スギ科の若い枝の樹皮。
2. マツ科のうちマツ属のみの若い枝の葉と樹皮。
3. 針葉樹の若い枝の針葉。
4. ヒマラヤスギやカラマツを含むマツ科の若い枝の樹皮。

問8

マツノマダラカミキリの産卵対象木に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. マツ科の健全な生立木であり、雌雄ともにそこに誘引される。
2. マツ属の健全な生立木であり、雌雄ともにそこに誘引される。
3. 材線虫病罹病木、風倒木、伐倒木等の生理的異常木であり、雌雄ともにそこに誘引される。
4. 材線虫病罹病木、風倒木、伐倒木等の生理的異常木であり、雄は雌の性フェロモンによって誘引される。

■マツノザイセンチュウの発病メカニズム

問9

夏季に高温少雨の年にはマツ材線虫病の被害量が多くなる理由として正しいのはどれか。

1. 媒介者体内のマツノザイセンチュウの増殖が早まるため。
2. 媒介者の活動が活発になるため。
3. マツの抵抗力が弱まるため。
4. 線虫の活動を抑制する有用微生物の活動が弱まるため。

問 10

マツ材線虫病の発病に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. マツノザイセンチュウは、土壌中にも生息していて、健全なマツの根に直接侵入することで病気を引き起こす。
2. マツノザイセンチュウがマツに侵入しても発病しない場合がある。
3. 樹体内に侵入したマツノザイセンチュウは、侵入後急速に増殖する結果、マツは枯死する。
4. 年越し枯れは、カミキリの産卵時にマツノザイセンチュウが侵入して起こる現象である。

■マツ材線虫病以外の松枯れ、抵抗性育種

問 11

樹木の人為による被害に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 日本の森林火災は、地表火がほとんどで、乾燥する冬季に最も多く発生する。
2. 耐煙性は、アカマツ、クロマツで弱い、カラマツでは強い。
3. 林地開発や土木工事により明るい環境に晒された樹木は、水ストレスを受けやすい。
4. 酸性雨により土壌が酸性化し樹木が衰退するという仮説は、疫学的に実証されている。

問 12

次のうち、マツ材線虫病と混同しやすい病気はどれか。

1. 立枯病
2. ならたげ病
3. つちくらげ病
4. 腐朽病

■マツ材線虫病の防除法

問 13

次のうち、伐倒くん蒸を実施する際の留意点として正しいのはどれか。

1. 主幹部のみをくん蒸すればよい。
2. 必ずしも枝条部まで含めてくん蒸する必要はない。
3. 枝条部を除いてくん蒸するほうがよい。
4. 必ず枝条部まで含めてくん蒸する必要がある。

問 14

次の防除薬剤の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 「マツガード」は、地上散布剤である。
2. 「グリーンガード」は樹幹注入剤である。
3. 「マダラコール」は、マツノザイセンチュウの誘殺剤である。
4. 「ネマバスター」は、樹幹注入剤である。

【論述式 出題事例】

・なぜ松林（または松）を守ることが重要であるか、あなたの考えを述べなさい（400 字以内とし、誤字、脱字、箇条書きは減点の対象となります）。

【選択式試験 解答】

問	正答番号
問 1	3
問 2	3
問 3	3
問 4	4
問 5	4
問 6	3
問 7	4
問 8	3
問 9	3
問 10	2
問 11	3
問 12	3
問 13	4
問 14	2